73

『牛山活套』の婦人部について

山田　恵美
日本鍼灸研究会

【緒言】 香月牛山著『牛山活套』3巻は，元禄12年（1699）に著わされ，安永8年（1779）に刊行された和文の治法書である．上巻では33論，中巻では36論，下巻では婦人13論と小児7論，外科18論の都合38論が，それぞれ病因を挙げて解説され，時に脈状を記し，末尾に病因に応じた薬方（名のみ）を載せる形式で書かれている．これは上巻冒頭の感冒において「凡此書ニハ薬方ノ名ヲ記メ薬味ヲ載スル事ナシ方考ニ薬味及加減等マデ逐一書載タリ云々」と記して，薬味や加減については，本書と併せて同著者の『牛山方考』を見よと指示していることと合致する．本書の特徴の一つに，婦人科の重視がある．それは下巻の婦人部以外の諸巻にも婦人に関する記述が見えること，牛山の著書に婦人科専門書『婦人寿草』（元禄5年［1692］成，宝永3年［1706］刊，和文．以下『寿草』と略す）があることからも，裏付けられる．以下，本書の婦人部の構成，および諸巻の婦人科に関する記述について検討する．

【『牛山活套』婦人部の構成】 下巻の冒頭から婦人部，調経，経閉，血崩，帯下，虚労，求嗣，妊娠，小産，産育，産後，乳病，婦人陰病と，婦人科に関する論が続く．

①典拠：この論の構成は龔廷賢の『万病回春』（1587年成，以下『回春』と略す）とほぼ同じで，異なるのは，『回春』では婦人部を婦人科とすること，小産と産育の序列が逆であること，乳病の次に乳岩があること，婦人陰病を婦人諸病に作ることの4点である．また本文もほとんど『回春』の引用から成る．ただし脈の記述には大きな違いが見られる．『回春』では調経，帯下，小産，乳病，乳岩を除く9論に脈状が述べられ，そのうち婦人科，血崩，虚労，求嗣，妊娠，産育，産後の7論は脈の記述が論の冒頭にある（経閉，婦人諸病は論中）．それに対し，本書では脈の記述は妊娠（典拠不明）と産後の2論に過ぎない．この点は，『寿草』では「其ノ脈證ヲキハメ」などと脈診の重要性を説いていることとも矛盾する．

②構成：牛山は，婦人部の冒頭において，婦人の病を別に記すのは「外感内傷共ニ男子ノ病ニ不異，只月経アルヲ以テ其品種々ニ別」有るためとし，「先ツ月経ノ事ヲ能ク問テ治ヲ施スベキ」と言う．これは『回春』の調経，経閉，血崩，帯下と続く構成から得たことでもあろう．続けて室女（「気鬱ヨリ発ス」）と寡婦（「抑鬱シテ気順セザルヨリ発ス」）に多く見られる病因について指摘し（『回春』に見えず，おそらく『寿草』で引用する『女科證治準繩』［以下『準繩』と略す］の記述を参考にする），以降の経閉と虚労，及び上・中巻において度々言及している．

【婦人部以外の記述】 婦人部以外の婦人，妊婦，寡婦，室女についての記述は次の通り．

上巻：傷寒（婦人，妊婦），中暑・中暍・注夏病（婦人），欝症（婦人，室女，寡婦），咳嗽（室女，妊婦），腹痛（婦人，妊婦），心痛（婦人，室女），頭痛（婦人，室女），脚気（婦人），瘧疾（妊婦，婦人），嘔吐（婦人，妊婦），膈噎（寡婦），虚労（室女，婦人）の12論（婦人10，妊婦5，寡婦2，室女5）．

中巻：諸気（婦人，室女），積聚（婦人），鼓張（婦人），諸血（婦人），癲狂（婦人），邪祟（婦人），痙病（妊婦），鬚髪（婦人），脱肛（妊婦）の8論（婦人7，妊婦2，室女1）．

【『婦人寿草』との関係】 求嗣，妊娠，産育では，『寿草』を参考にするようにとの指示がある．『寿草』では，これら3論が全体の約8割（全36論中，求嗣が7論，妊娠・産育が22論）を占め，しかも『婦人良方』『準繩』を主な引用書とし，かつ一般大衆向けの養生書としての色合いも濃いためである．ただし両書は全体の構成や内容を異にしているから，必ず併読しなければならない姉妹編の関係にある．

【結語】 本書の婦人部は，『回春』の構成や内容に一部変更を加えるも，ほぼ踏襲している．また求嗣，妊娠，産育を中心に論じた『寿草』に対し，月経を中心とした婦人特有の諸疾に重点を置く．両書を参看することで，牛山の婦人科についての全体像をはじめてうかがうことができる．